

## — 第百貳拾壹号 —

(2012年冬号)

### 2013年 しん窯青花初売りのお知らせ

【期間】2013年1月1日（元旦・火）～1月6日（日）  
10:00～17:00

- 【内容】・福袋（10,000円）販売 限定5個
- ・店内全商品ご奉仕価格にて販売
  - ・10,000円以上お買い上げの方に  
干支の箸置（青花匠）またはべんじゃら箸置プレゼント！  
（福袋を除く、送料別）



## ガスタンク空気漏れ

11月16日（金）朝、いつものように工房に出ました。

専務の橋口博之から「窯の炎の調子がおかしいです。タンクからLNGが供給されていません。緊急遮断弁が閉まっているようです。大至急イワタニさんが駆けつけて下さっています。」即、タンク前に行ってイワタニさんと専務と私で協議しました。

緊急遮断弁は空気圧で開閉するしくみになっています。毎日朝昼夕点検していますので、変わった箇所があれば即対応できます。また、窯を焚く時は、初期動作として夜9時頃炎の調子をチェックします。そして朝出勤後にコンピューターへ移行します。

事故は移行前の出来事です。つまり、950℃位で移行しますが500℃前後しか温度が表示していませんし、炎がろうそくの灯のようで勢いがありません。ガスが供給されていないのです。昨日の夜9時過ぎから今朝までタンクからLNGが流れていないという事になり、緊急遮断弁の配管チェックをしました。結果、2箇所からごくわずかな空気漏れを発見しました。その結果、徐々に一晩かけて遮断弁が閉じていったのです。これではガス不足で温度も上がらず、還元炎も作れません。できるだけの手当てはしましたが、私の昔のアドバイザーである山口善博さんの後ろ盾もあって、950℃まで上げた本焼成でしたが、ここでストップしました。

一窯ン百万円とお客様の大至急の商品満載でしたので、一瞬青くなりましたが、表情は変えませんでした。これからどうするか。まず設備の徹底点検。窯の焚き直しについて、専務と工房の窯責任者と協議しました。

11月19日（月）に、となりの2号窯で焚き直す事にして、タンクをあきらめ、50kgボンベ7本に切り換えて無事焚き直しました。いつもは95%歩どまり率をめざしていますが、今回はやはり80%でしたが、80%も出来上がった事で私は内心喜びました。日々点検を重ねていても、今回の事故が起きました。点検箇所を増やしたりして原点に帰ります。

最近、トンネル内天井落下で9人もの尊い命が失われています。あの東日本大震災からまもなく3年です。事故や災害からいかにして安心安全を守るか、喫緊の課題です。

タンクは1973（昭和48）年設置しましたので、40年間おつきあいをしてきました。やはり老朽化が一番の原因です。設備や機械や道具は私たちの分身のようにかわいがってその寿命をのばし続けてきましたが、やはり限界が近づいてきているようです。寂しいですが、今の時代の規模にあわせてリフォームするより仕方ありません。それにしても、10トンガスタンクといえども、約40年間、窯元で最も大切な窯焚きについて理論と実践を駆使してつきあい続けてきただけに撤去する英断がなかなか下せなくて情けないです。



## 「あのひとあの日」 ローカルドラマ作品賞

「国際ドラマフェスティバル in TOKYO」では、個社のビジネスとは一線を画し、日本の放送コンテンツを世界中にPRすることを旨として海外展開を進めています、という目的で日本のテレビ番組の海外発信を推進しています。

今年1月、極寒の中で有田ロケが行われましたが、10月22日発表の結果、見事ローカルドラマ賞を受賞しました。

以下、HPより抜粋します。

### ～あのひとあの日 概要～

かつてヨーロッパの王侯貴族も愛した「有田焼」は、現在売り上げが激減し、産地は不況にあえいでいる。

創業100年の伝統を誇る窯元の主、兵動泰は、倒産寸前の窯を息子たちに押し付け、勝手気ままな生活を送っていた。長男・尚輝は父の才能を受け継ぐ絵付師だが、父に似て酒と女におぼれる毎日。経営者として窯元を継いだ次男・宣之は、伝統ある窯を守ろうと一人悩み、薄利多売の経営方針に舵を切った。

親子三人の心は、バラバラ。ぶつかることもなく、すれ違う日々がダラダラと続いていた。そんなある日、泰は医師から余命宣告を受ける。到底受け入れることが出来ない泰。

そこに東日本大震災で被災した福島県浪江町の窯元から、母娘がやって来た。

「死ぬってどがんことや？」娘を問い詰める泰。

「…父さんは生きてる」やっとのことで答える娘。

娘との交流が次第に泰の心に変化を生み、その変化は窯元全体を包み込んでいく。

人はどのようにして、大切な人との別れを受け入れて行くのか。日本の磁器発祥の地、佐賀県有田町を舞台に描く。

## 嬉しいお便り

『短時間の滞在にもかかわらず親切な対応本当にありがとうございました。』

自宅に帰って確認してみたら、やはり青花の花器でした。

30年前陶磁器の本に載っていた紅毛伊万里の意匠を街角で目にして、足を止め手に取って思わず衝動買いしたものです。大好きなデザインで大切に扱っていたので、おっちょこちょいの僕にしては割れずに今まで生き残ってきました。

まさかこんな嬉しい偶然で窯元まで辿り着けるなんて思いもしませんでした。皆様に感謝致します。』



I様より、画像添付でいただきました（一部抜粋）。ありがとうございます。

## 友遠方より来る！

早稲田応化の同期生、藤本隆之氏の突然の訪問を受けました。私たち以上に元気そう満面に笑みを浮かべ、早朝4時に起きて千葉から今飛んで来たとは思えない表情でした。数年ぶりにお会いしましたが、即学生時代に戻るから不思議です。

今回は、大病を乗り越え完全復帰した喜びと、工学分野のノーベル賞を目指す「クイーンエリザベス工学賞」が英国で創設され、数万件の1件にエントリーされたこと大喜びの報告でした。受賞者は来年春に発表され、エリザベス女王から授与されるそうで、エントリーの話を知りただけでも興奮してしまいました。ちなみに、40年前三井鉱山時代の論文と、大気汚染防止設備機械の普及の成果だそうです。思いがけない訪問でしたが、一足先に春が来たようで、身も心も暖かく豊かになりました。夕方は博多で学会のためわずか3時間の有田滞在でしたが、大きな大きなおみやげ話を置いて疾風の如く去って行きました。私たちはまだお福分けの余韻を楽しんでいます。

### 賞金1億3千万円の英国版“ノーベル工学賞”公募開始

2012年3月6日

工学分野のノーベル賞を目指す「クイーンエリザベス工学賞」が英国で創設され、公式ウェブサイトを受賞候補の推薦募集が始まった。独立公益信託の「クイーンエリザベス工学賞財団」を基金源に、英王立工学アカデミーが運営を担当し、2年に1回人類に顕著な利益をもたらすイノベーション（技術革新）に貢献した個人またはグループを3人まで表彰し、賞金100万ポンド（約1億3,000万円）を授与する。

科学的な発見や発明を主に対象としている“本家”のノーベル賞（科学各賞）とは異なり、エンジニアリング分野での新技術、社会への大きな貢献度を評価の対象としているのが特徴だ。昨年11月にソニーや東芝など日本企業を含む世界各国の企業からの寄付金によって同財団が設立され、同工学賞の創設が発表された。

受賞候補の推薦は今年9月14日まで、自己推薦と故人推薦以外、国籍に関係なく世界中から応募できる。審査委員会は小宮山宏・日本工学アカデミー会長など世界6カ国の14人で組織される。2013年春に受賞者を発表し、エリザベス女王が賞を授与する。

## 特報！！！！ コロプラ社、マザーズへ上場！！

株コロプラは、12月13日（木）東証2部マザーズへ上場されました。2009（平成21）年5月、馬場社長、千葉副社長とコロプラゲームについて話を聞き会食してからわずか2年半。超特急上場公開です。驚きを通り越して感動です。[青花瓦版106号](#)を参照して下さい。